

G7エルマウサミットにおけるインフラ投資に関するサイドイベント
岸田総理発言内容

ジョーとオラフのイニシアティブを歓迎します。

インフラ投資は、世界の生産性と繁栄の促進のために不可欠です。港湾、鉄道、空港といったインフラは、人々の生活や経済活動を支え、国の発展の基盤となります。

しかし、ただ多くのインフラを整備すればよいというわけではありません。初期投資が安くとも、ライフサイクル全体で見れば、経済性に欠けることがあります。また、実行困難な債務返済計画により、支援を受けた国が債務不履行に陥ることになれば、むしろその国の成長を阻害するものになってしまいます。

したがって、透明性、開放性、経済性、持続可能性等を含む「質の高いインフラ投資に関するG20原則」に沿って、G7各国が連携して質の高いインフラ投資を促進していくことが重要です。

こうした観点から、我が国としても、今後5年間で、650億ドル以上のインフラ支援と民間資金の動員の実現を目指していくことを表明します。

新型コロナや気候変動といった課題に加え、現在、ウクライナ侵略により世界経済はエネルギーや食料などの物価高騰やサプライチェーンの混乱などに直面しています。これらに対処する上でも質の高いインフラ投資が不可欠です。

質の高いインフラの整備は、「自由で開かれたインド太平洋」の実現にとっても重要です。インド太平洋地域においても、地域の連結性に資する鉄道や空港、海洋安全保障につながる港湾の整備、サイバーセキュリティを含む経済安全保障の強化などに取り組みます。

今後も、我が国としては、ODAを通じた国際協力を適正・効率的かつ戦略的に活用しつつ、ODAを拡充するなど、外交的取組を強化するとともに、引き続きG7をはじめとする各国と連携を深めていく考えです。